

## 表紙のことば

### 「熱海の熱帯植物達」

畑 鉄彦

私の写真による作品は自分の歴史を記録しているものである。その時々、心に宿っているなにものかを動機としてそれぞれが3乃至4年間の記録となっている。それらは私の人生を破線として形作っているといえるだろう。破線であるという意味は作品と作品との間が空いている場合があるという意味である。抜けているという、破線の線の部分である時に制作をしたにもかかわらず、その時にまとめた作品から抜け落ちてしまったプリントがある。これらのプリントは好ましいと感じながら、その時の自分の選択から外してしまったのである。理由はその作品の構成を作ったときの判断として、周囲による理解を意識したからであろう。理解されることを意識しなかったとしたら組み込まれ、今はその時に編んだ集の中の一枚としての存在になっていたはずである。それらのプリントを思う時、そこに本当の自分があったのかも知れないと感じる。

ずいぶん植物を写した。それらは私の心の反映としての植物達であり、ある意味では同意を得ることができたもの達であった。この熱海で写した熱帯植物園の植物たちは、破綻した園の中で野生化していた。本来は熱帯にあるべきなのに亜熱帯の島にある破綻してしまった環境の中であって、それらは威勢を張って生きていた。今、その場所には老人ホームが建っている。13年ほど前の撮影である。